

がん患者サポートのための栄養学的アプローチ

—在宅膵臓がん患者への栄養支援—

Nutritional approaches to Cancer patient support
—Nutritional support for Pancreatic cancer patients at home—

中島 千恵子

Chieko Nakajima

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード：膵臓がん, 在宅, 栄養支援, 食事, 患者家族

Key words : Pancreatic Cancer, at home, Nutritional support, Diet, Patient Family

1. 研究目的

がん患者は、告知によるストレスや代謝異常により栄養状態が低下する患者が多く、31～81%が低栄養状態であると報告されている¹⁾。そのため適切な栄養アセスメントにより栄養状態を的確に把握し、治療効果やQOL（生活の質）の向上につなげることが重要となる。

がん患者の低栄養は、主に①癌と宿主の代謝異常によって生じる低栄養（cancer-induced weight loss）、②化学療法、放射線療法などの治療に起因する低栄養（cancer-associated weight loss）③心理的ストレス・栄養知識の認識不足に大別される²⁾。

栄養状態にもっとも起因する食欲不振は、手術、化学療法、放射線療法、免疫療法の癌治療に伴う痛み、味覚障害などの副作用と心理的ストレスによって顕著に影響を受ける。また、悪液質の代謝変化は、サイトカイン、神経ペプチド、ホルモンなどの産生異常により、糖質、脂質、蛋白質の代謝異常を生じる。

がん患者の低栄養に対する栄養管理は、全てのがん患者治療の基礎となるべきものであり、多岐にわたる病態に応じた細やかな栄養介入が必要となる。

近年、がん患者に対する栄養介入が注目されており、次第にそのエビデンスが集積されつつあるが、その内容は特定の栄養補助食品を用いた報告や入院がん患者の栄養管理における先駆的な取り組みに関する報告がほとんどである。

近年、全がんの10年相対生存率は58.3%まで増加している³⁾ ことから、特に外来や在宅でがん治

療を継続しているがん患者にフォーカスし、日常生活における食事と栄養状態の関係を評価していく必要があると考えられた⁴⁾。

そこで、本研究では外来や在宅で治療を継続するがん患者を対象に、定期的な栄養評価の実施と在宅における食生活に役立つ栄養学的アプローチにより、がん患者のQOL改善と、病態回復を目指す指標を検討することを目的とする。

2. 研究実施内容

研究対象について、当初よりがん患者全体(癌腫を特定しない)にするか膵臓がんに限定するか検討していたが、研究計画を設計する中で独創性や研究の社会的意義を改めて見直し、以下のとおりとすることとした。

対象は膵臓がん患者に絞り、主に外来や在宅で治療中の膵臓がん患者における日常の食生活に関する問題点・課題を明らかにし、QOLの改善を栄養的側面から検討することとした。

研究対象は患者団体へ協力依頼を開始し、2022年1月に承諾を得ることができた。また、病院栄養士については、指導教官に協力いただけることとなっている。

研究方法として人を対象とした調査等が主となるため、現在は倫理審査申請資料を作成中である。

3. まとめと今後の課題

当初の予定では膵臓がん患者に限らず、その他のがん患者さんとも交流をもつ予定であったが、コロナ禍のためにその機会を持つことが非常に困

難であったことから、改めて研究計画の実現可能性や社会的意義を再考した。

その結果、依然として5年生存率が悪性新生物の中では、最下位の予後不良とされる膵臓がんに焦点を絞ることとした。膵臓がんは早期診断の困難さで知られるように、「がん」と診断されてからの生存年数が平均1.5年と短く、エビデンスが少ないのが現状である。つまり、患者やその家族が参考とする情報も少なく、本研究は膵臓がん患者やその家族が前向きに癌と付き合っていくための一助となり得るものとして意義があると考えます。

今後は、研究対象を膵臓がん患者に絞り、主に外来や在宅で治療中の膵臓がん患者における日常の食生活に関する問題点・課題を明らかにし、QOLの改善を栄養的側面から検討する予定である。

さらに、膵臓がん患者の食生活における悩みや苦痛の対処法の事例集を作ることで、より患者に寄り添ったガイドライン的な参考ツールとして活用され、患者や家族の負担が軽減しQOLが向上することを目指す。

本研究を進める上で、まずは倫理審査で承認を得ることが最優先課題であり、早急に進めていく所存である。

また、研究対象者へヒアリングを行う際には事前に指導教官の支持を仰ぎながら滞りなく実施できるように準備して臨みたい。

参考文献

- 1) Maureen B Huhmann et al. Importance of nutritional screening in treatment of cancer-related weight loss *Lancet Oncol.* 2005 May;6(5):334-43.
- 2) 宇佐美 眞 ほか 癌患者に対する栄養療法 四国医誌 69巻5, 6号 215~224 DECEMBER 25, 2013 (平25)
- 3) 全国がんセンター協議会の生存率共同調査 (2020年11月集計) による
- 4) 柴田裕ら, 静脈経腸栄養, Vol.29 No.4, 2014
- 5) McMillan DC, et al. Evaluation of an inflammationbased prognostic score (GPS) in patients undergoing resection for colon and rectal cancer. *Int J Colorect Dis* 2007; 22: 881- 6.
- 6) Proctor MJ, et al. An inflammation-based prognostic score (mGPS) predicts cancer survival independent of tumor site: A Glasgow inflammation outcome study. *Br J Cancer* 2011; 104: 726-34.